



## 第17回 JECKU 五極造船首脳会議について

第17回世界造船首脳会議（JECKU）が、2008年11月5日(水)～11月7日(金)の3日間、宮崎市にて開催されました。首脳の奥様も含め総勢120名弱が参加しました。

本会議(JECKU/TEM)は11月6日(木)に宮崎市のシーガイア内のサミットにて、日本(J)から田崎日本造船工業会会長以下25名、欧州(E)からアントニーニ・ユーロヤード会長以下14名、中国(C)からリー中国船舶工業行業協会副会長以下17名、韓国(K)から朴韓国造船協会会長以下19名、米国(U)ハリス・GDナスコ社長以下6名から成る5極の造船首脳及び関係者総勢81名が参加し開催されました。

当日の議題と議長声明は以下の通り。

1. 議長歓迎挨拶、出席者紹介
2. 基調演説
3. 経済動向と市況
4. 船種別市場動向
5. 建造需要と能力
6. コスト問題（鋼材など）
7. 知的財産保護 I P R
8. C E S S（造船関係専門委員会）会議報告
9. 議長声明
10. 次回 2009 J E C K U



## 第 17 回 JECKU 五極造船首脳会議

2008 年 11 月 6 日

### 議 長 声 明

#### (要約)

第 17 回 JECKU 五極造船首脳会議は、宮崎にて 2008 年 11 月 6 日に開催された。日本、欧州、中国、韓国、米国の主たる造船会社の首脳 81 人が一堂に会した。

この会議は、金融危機が拡大し世界経済の減速懸念が増大している時期に開催され、参加した造船首脳は、世界経済、海運・造船市場の傾向のほか、コスト推移、人的資源、規制強化の問題、環境問題、知的財産権などについて業界全体の共通の理解と認識を共有すべく、活発に議論を展開した。

会議参加者は、造船需要は、ここ数年予想以上に旺盛であったが、直近では弱含みの様相を呈していることに留意した。造船業が健全で均衡のとれた業界として発展していく為には、長期的な見通しを視野に合理的な経営を行うべきとの意見が述べられた。

他方、海事産業を取り巻く現在の流動的な環境は、造船産業の健全な発展のための転換点になるであろう、との意見の一致をみた。

経済減速による鋼材や原材料価格の直近の弱含みに留意するも、造船コストの高騰、とりわけ過去数年間の鉄鋼材価格の急激な上昇が議論の焦点となった。経営実績への懸念の一方で、船舶を安定的に供給する責任についても議論され



た。造船首脳は関係業界に対し、このような急激な価格高騰が将来再び起きぬよう、我々の懸念を表明するものである。

会議では、人的資源の問題も議論され、造船首脳は次世代への技術や技能の伝承に一層の努力を傾けるとした。また、船舶の規制強化については、安全と環境改善に最善をつくすために、造船首脳は力を合わせて取り組んでいくとの議論がなされた。会議の参加者は CESS（造船関係専門委員会）活動を大いに評価し、活動の継続に対しさらなる支援を表明した。

さらには、知的財産権の重要性につき議論がなされ、造船首脳は、当業界は勿論、その認識を関連業界へも積極的に進めるべきとの結論に至った。

世界経済は一時的に低迷するであろうが、金融市場が早期に正常化すれば、新造船市況は徐々に回復することができよう。また、世界の造船業界は、競争力を強化し、かつ新たな製品や市場を開拓する為の最大限の努力をする必要があるとした。

会議に参加の造船首脳は、業界の持続的な発展の為、JECKU 会議を継続する事を確認し、次回は、来年 2009 年 10 月末ベルリンで再会することに合意した。